

劇音楽から見た新しい歌舞伎史の誕生

江戸歌舞伎 長唄成立史

原道生 監修・漆崎まり 著

2018 年秋刊行予定！

B5 判・上製・カバー装・280 頁予定・定価（本体 15,000 円＋税）

ISBN978-4-8406-9767-5 C3073 ¥15000E

江戸の荒事を主体とした舞台から、現代に通じる舞台へと
変容する契機を 8,000 点に及ぶ薄物正本の調査により実証。

享保期、多くの若女形が上方から江戸へと下り、得意とする所作事を演じて、江戸の歌舞伎に新しい彩りをもたらした。この時、彼らの東下に同行してその伴奏を担当した代表的な唄方に、名優坂田藤十郎の甥で、上方小歌の唄い手として人気があった坂田兵四郎のいたことが知られている。本書は、昨年夭折した著者が、その生前、8,000 点にも及ぶ長唄正本の詳細な書誌的調査を通じて、兵四郎らの移入した上方小歌から江戸長唄が形成され、江戸の歌舞伎を特徴づける多彩な長唄所作事が生み出されてくる過程を明らかにした労作である。

== 本書の特長 ==

- 8,000 点に及ぶ長唄本の調査分類の結果を、表の形にまとめて提示した。
 - 各種の表に記載したすべての長唄本の所在一覧を付した。
 - 初演時の正本と、後に生じた異版の判別をし、
 - 諸本の絵表紙の図版を多用（180 点余）して、その実証を試みた。
 - 江戸三座と専属版元の関係を示した。
 - 地本としての長唄正本の版権の確立を解明した。
 - 役者と唄方の職分の専門化を示した。

八木書店

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-8 Tel:03-3291-2961 / fax:03-3291-6300

pub@books-yagi.co.jp <https://company.books-yagi.co.jp/>

目次

序……………原道生

序章

第一部 長唄正本の版行形態

第一章 中村座（享保期から寛政3年）

第二章 市村座（享保期から寛政3年）

第三章 森田座・河原崎座（享保期から享和期）

第二部 長唄成立史

第一章 正本の刊行と長唄の形成

第二章 小唄から長唄への展開

第三部 中村座における^{かぶはんか}株板化の動向

地本としての長唄の薄物／株板化の要因／正本と偽版／相版化／版元の交代・株板化の
要因／「後版」グループ・天保期の芝居町移転後

終章

付論

江戸歌舞伎における長唄の形成—芸態の変化を捉えて—
河東節正本の版行に関する一考察

長唄とは

歌舞伎は狂言（物語・粗筋）と所作事（舞踊劇）とが両輪となって演じられる芸能です。長唄は、そんな歌舞伎の伴奏音楽として、欠かすことの出来ない音楽です。長唄は主に女方舞踊の伴奏音楽として発達しました。代表的な現行の演目としては「京鹿子娘道成寺」（平成17年4月、18代目中村勘三郎襲名興行にて上演）や「鏡獅子」「藤娘」があり、また、立役（主役）舞踊としては、松羽目物の代表作「勸進帳」（平成19年3月、パリ、オペラ座公演で12代目市川団十郎と11代目市川海老蔵親子が演じた）などの演目が有名です。演奏は座付きの演奏者（長唄の唄方・三味線方・お囃子の三役）が担当します。他に、歌舞伎で三味線を使う音楽には、他に義太夫・常磐津・清元や、河東節・一中節などいくつもの流派があり、江戸時代の人々はそれを聞き分けて楽しんでいました。

著者紹介 漆崎まり

東京芸術大学博士課程修了 元国際日本文化研究センター研究部機関研究員。2017年6月没

申 込 書	原道生監修 漆崎まり著・八木書店刊		2018年秋刊行予定	取扱店（番線印）
	江戸歌舞伎長唄成立史		[]冊	
	ISBN978-4-8406-9767-5 C3073 ¥15000E 定価（本体15,000円+税）			
	お名前（ふりがな）		TEL	
	ご住所 〒		FAX	
			E-MAIL	